

この映画は『スター・ウォーズ』以前に創られた
永遠不滅の作品である。

文部省特選 他多数団体推選

2001: a space odyssey

『スター・ウォーズ』のジョージ・ルーカス監督は『2001年宇宙の旅』について言う。
スタンリー・キューブリックは究極的なSF映画を創った。そして、どんな人でもこれ以上の
映画を製作することは非常に困難なことであろう。
技術的に比較することは出来るが私は『2001年宇宙の旅』が遙かに優れていると思う。

製作・監督スタンリー・キューブリック

脚本スタンリー・キューブリック/アーサー・C・クラーク ■原作邦訳(早川書房刊) ■サントラ盤(MGMレコード)
主演キア・デュリア/ゲラリー・ロックウッド

2001年宇宙の旅

〈カラー作品〉

MGM映画
CIC配給

10月28日(土)ロードショー!

特別鑑賞券1,000円
絶賛発売中!
(一般 1,300円
学生 1,100円)の処

6チャンネル
超ステレオ音響

70mm

銀座一丁目 **テアトル東京**
(562) 5301

上映時間 連日 10:30 1:10 4:00 6:50

タイトル・バックのテーマ曲として、リヒアルト・シュトラウス作曲の「ツアラトウストラはかく語りき」の旋律、鮮かにSF映画の傑作中の傑作が今甦ります。

SF映画ブームとして「未知との遭遇」「スター・ウォーズ」といった作品が公開されましたが、これらの内容はこの「2001年宇宙の旅」をモチーフにしている事は過言でない。これは、「博士の異常な愛情」「時計じかけのオレンジ」など数々の名作を生んだ才人スタンリー・キューブリック監督が、世界のSF小説界をリードする英国の作家アーサー・C・クラークとの完全な協力のもとに作った、画期的な宇宙物です。

キューブリックは、地球の外の生命や生活のテーマにとり憑かれ、これを面白く、しかも科学的にも裏付けされた映画にする方法を5年の歳月にわたって考え、そして心血をそそいで完成させた。

彼は、世間には殺人光線や怪物どもに満ちた空想科学映画が氾濫しているが、それらと全く違い、今からやがて近づく2001年に、我々は宇宙でどんな事が出来るか、又どんな宇宙の驚異や不可思議に直面するかを追求した。

勿論、NASAを始め、アメリカ、イギリスの主要な科学研究所や大学と密接な連絡を取り、更に各方面の専門家や、IBMを始めとする一流会社に協力を仰いだのは云うまでもない。この映画で、地球から宇宙ステーションへ、宇宙ステーションから月への快適な宇宙旅行や、さらに8億キロ彼方の木星へ向う、宇宙探検旅行が描かれるが、その間に出て来る物、例えば宇宙船、月基地などから、人工重力や人工冬眠の装置、自由に会話の出来るコンピュータ、宇宙服、その他のどんなさ細な物にいたるまで、専門家の意見に基いていて決して偶然ではない。したがって各シーンの撮影の苦心は大変で、準備やリハーサルに何週間もかかり、全巻撮影だけでも2年の歳月を要した。なお特殊撮影効果のアイデアはキューブリックによるところが多いがそれらのスタッフの中にはその後「未知との遭遇」「スター・ウォーズ」などの特殊効果に加わりアカデミー賞など獲得した有能な人物も現われている。

主な出演者は、「女狐」のキア・デュリア、「ヤング・ヤング・パレード」のゲイリー・ロックウッド、他。

■MGM映画/CIC配給 ■1968年度作品 ■上映時間2時間32分

■文部省特選■

特選の理由 43・4・22

『33年後の2001年には、月以外のどんな宇宙へ到達し、そこにはどのような世界が存在するかを描いた空想科学映画。可能とされている未来の科学技術を想定し、未知の空間、宇宙の驚異、冒険を、巧みな映画技術を駆使してとらえた、傑出した作品である』
■SF作品で特選を獲得したのは現在この作品一本だけである。

この映画に構成される音楽

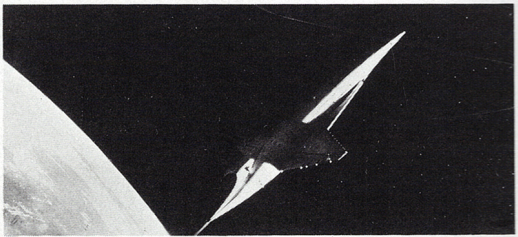
- 「ツアラトウストラはかく語りき」
作曲 リヒアルト・シュトラウス
- 「ソプラノ・メゾソプラノ・2つの混成
合唱と管弦楽のためのレクイエム」
作曲 ギョルギイ・リゲッティ
- 「美しく青きドナウ」
作曲 ヨハン・シュトラウス
- 「永遠の光を」
作曲 ギョルギイ・リゲッティ
- 「舞踊組曲・ガヤータのアダージオ」
作曲 アラム・ハチャトゥリアン
- 「無限の宇宙」
作曲 ギョルギイ・リゲッティ



月の基地ティコ噴火口で

2001: a space odyssey

2001年宇宙の旅



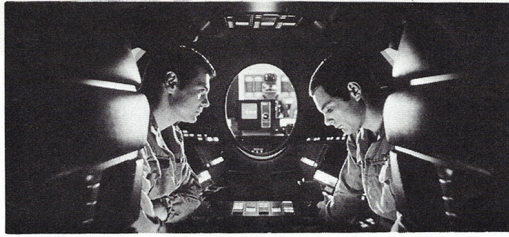
地球と月との中継所(宇宙ステーション)を結ぶ宇宙旅客機オリオン号

■スタッフ■

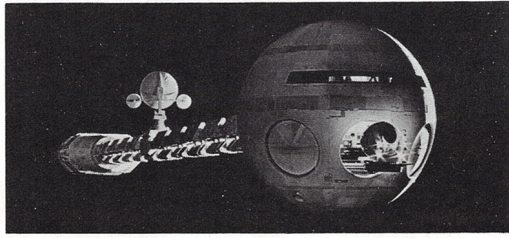
- 製作・監督……………スタンリー・キューブリック
- 脚 本……………アーサー・C・クラーク
- ”……………スタンリー・キューブリック
- 撮影監督……………ジョフリー・アンズワース
- 製作デザイン……………トニー・マスターズ
- ”……………ハリー・ラング
- ”……………アーニー・アーチャー
- 編集……………レイ・ラブジョイ
- 衣装……………ハーディ・エイミーズ

■キャスト■

- ポーマン船長……………キア・デュリア
- プール操縦士……………ゲイリー・ロックウッド
- フロイド博士……………ウィリアム・シルベスター
- 月監視人……………ダニエル・リクター
- HAL9000(声)……………ダグラス・レインスミスロフ
- エレナ……………マーガレット・タイザック
- ハルバーセン……………ロバート・ビーティ
- 作戦管理者……………フランク・ミラー



宇宙飛行士の会話にコンピューターHAL9000に読唇術で解読される…



全長210m 宇宙探検船ディスカバリー号 木星から遙か彼方へ



地球と月の中継所を結ぶ宇宙ステーション5、赤道の上空1,800*

「2001年宇宙の旅」の作者たちの発言

★脚本 アーサー・C・クラークの言葉
「もし、この映画が、一度で観客に理解されたら、われわれの意図は失敗したことになる」

★製作・監督 スタンリー・キューブリックの言葉
「製作の意図について「言葉で説明できない種類のもの、つまり視覚的体験を―見る人の意識の内部へ到達するような強烈な体験を、私は創造しようとしたのだ。」作品の主題について「この映画の主題は『神』という概念だ。ただし、これまでのような神ではなく、科学的な定義による神なのだ。宇宙の知性的存在、生物的進化の最先端としての神である。」